

第2回八王子市市民参加推進審議会まとめ

【第2回配布資料】

資料2-1：第1回八王子市市民参加推進審議会（第8期）会議録

資料2-2：第2回市民参加推進審議会 議論のポイント

【団体や企業を通じた市民参加の裾野を拡大させるための方策について】

≪審議内容≫

[企業の地域や市政への参加]

- ・地域の中の社会的存在として地域に参加したい、地域の人たちと一緒に企業目的を達成したいという考えを持った企業が増えていると感じる。
- ・近年、市や社会福祉協議会と連携協定を結ぶ企業も増えている。企業としても地域に参加したいと考えているのではないか。
- ・八王子市内企業のほとんどが中小企業。中小企業は市民参加、社会参加、SDGsへの取り組みを行うことができる状況ではないのではないか。
- ・利益相反行為に該当する可能性もあり、企業の市民参加について一定程度の縛りを設けることも必要ではないか。
- ・中小企業に対し、余力の部分で市民参加を求めるのは難しいところもあるということが事実である一方で、そこを取り残したままで良いのか、というジレンマがある。
- ・各町会の地域内にライフラインに関わる業者がいるかを調べ、何かの際に協力してくれる業者に登録してもらい、登録業者の一覧表を作成し住民に配布する計画がある。これも企業の地域参加と言えるものであり、このようなものから行政への参加につながるということもあるのではないか。
- ・地域の事業者と住民をつなぐことは、持続的な地域の発展、経済的な点も含めた地域コミュニティの維持という点からみて、また、当事者として事業者が地域に関わるという点からも、良い地域づくりにつながるもの。

[参加のきっかけ]

- ・所属する企業が協賛する地域のイベントに、従業員同士での誘い合いもあり自分だけでは行けないところに行ける、面白そうだったことから自身も2回参加した。
- ・楽しみながら参加しようという意欲を持てるということが大事。
- ・学生たちは、自分たちから積極的に何かをやりに行くという形ではなく、きっかけを与えることで、求めている以上に大きなことをやってくれる。

- ・どうやれば良いのか、という作法が分からないため一歩踏み出せないが、きっかけを与え、やり方を教えてあげればできる学生は多い。
- ・きっかけを与えることで参加してくれる人はたくさんいるのではないか。
- ・学生、市民、企業においてもどうしたら参加の入り口に入ってくれるか。きっかけが大事。
- ・イベント実施時に大学のボランティアセンターを通じ学生ボランティアを募集したところ、50人位の参加があった例もある。こういった学生の中には、別のイベントへも参加してくれたり、企画段階から参加したいと言ってくれる学生もいる。
- ・どのようなことでも、興味を持つ人がいる一方で、興味を持たない人、仕事と休日を分けて考えたいという人も必ずいる。考え方は人によって違う。

[当事者としての意識]

- ・学生たちは、自分が行っていることが市などの公的なものにつながっているという認識が希薄。
- ・当事者であるという意識を企業や団体に持ってもらうことが地域づくりにつながっていく。

[学生による参加]

- ・高校で探求学習が必修になる。学習を通じた経験・思考を持った生徒が増えてくれば、大学での活動も活発になると思う。これからは、それをどのように市民活動として捉えていってあげるかがポイントになる。
- ・探求学習をどのように生かしていくか、ということが市政参加の裾野を広げるためのポイントになる。
- ・高校側は生徒の取り組みを地域や市につなげる方法が分からない。つなげていくための市側のコーディネーターが必要。
- ・若い人たちは自分が行っていることに自信を持っておらず、市が求めているもの、市に出すものはもっとちゃんとしたものでなければいけないと考えている。そうではないことを伝える歩み寄り、アピールが必要。
- ・自身の提案等に対し、実際に行政の現場で業務にあたっている人からコメントが返ってくるだけで学生に与える影響は大きいと思う。声がちゃんと届いている、ということが分かるだけでも違う

[審議方向の整理]

- ・諮問事項について、市民参加を見込める大企業を対象とするのか、参加は困難な状況であることを理解したうえで、中小企業にも何らかの形で参加して欲しいと考えるのか、整理が必要ではないか。